opusdei.org

黙想:年間第25主日 (C年)

黙想のテーマ:「神の論理を 生きるよう招かれている」 「狡猾な管理人のたとえ」 「神と共に生きる決心」

神の論理を生きるよう招かれている

狡猾な管理人のたとえ

神と共に生きる決心

イエスの多くのたとえには、びっくりさせられたり、思いがけない展開

をしたりするものがあります。主の たとえ話には普通のことではない何 かがあるのです。時には、聞いたり 読んだりしても分からないこともあ ります。中でも注意を引くのは、た とえば、主人の財産を不正に使い込 んだ管理人をほめ、模範として示す ことです (ルカ16・1-8参照)。他 方、家を出て遺産を無駄使いした末 息子を迎えて祝宴を開くことなど、 普通にはちょっと理解し難いことで す (ルカ15・11-32参照)。また、多 くの借金を返すため、しばらくの猶 予を願っただけのしもべを赦すこと など、普通にはあり得ません(マタ イ18・22-35参照)。雇人たちの働き に応じた賃金を決めない雇い主につ いても、同じことが言えます(マタ イ20・1-16参照)。

たとえの教えから、イエスはキリスト者の生活が、私たちの思いと全く同じ線上でなされるのではなく、別の形をとることを示されます。「わ

たしの思いは、あなたたちの思いと 異なり、わたしの道はあなたたちの 道と異なる」(イザヤ55・8)と、神 は預言者イザヤを通して仰せになり ました。地上でのキリストの歩み は、この世界を見る新たな視点を、 私たちに教えます。権力の論理は、 奉仕といつくしみの論理にとって変 えられました。社会から〈最低〉と 考えられていた人々は、主から特別 の愛を受けることになったのです。 また、残虐な死の道具となった十字 架は、新たないのちの源泉になりま した。どちらも、人となってこの世 で過ごされた主ご自身の逆説に通じ ることです。「みことばは神であり ながら人となり、富んでいたのに、 貧しくなったのは、ご自分の貧しさ で、私たちを富ませるためです。権 力者でありながら、弱者となり、へ ロデに軽蔑され、あざけられたので す。地を揺り動かす力のある方が、 あの木に釘付けにされたのです | m。キリストの弟子である私たち

は、活き活きとした心で、この新たな論理に従うよう招かれているのです。

管理人は、解雇される前に、将来の 生計を確保するため、最終的な手段 を使うことにしました。主人に負債 のある人たちを呼び集め、その証書 の額を少なく書き直したのです。こ うして、たとえでは、将来の助け手 として、彼が友だちをつくったこと になっています(ルカ16・3-8参 照)。イエスが強調されるのは、こ の人の不誠実さではなく、その抜け 目なさです。将来の惨めさを解決す るため、洞察力をもって行動するこ とです。キリストは弟子たちに、神 の国を宣教するためにも、自己の才 知を働かすよう勧めます。聖ホセマ リアは言っていました。「人々は、 現世的な事柄に、なんと情熱を燃や

すことか (…)。あなたと私が霊魂にかかわる事柄に彼らと同じくらいの情熱をそそげば、生き生きとした行ないに現れる信仰を持つことがでるだろう。そうなれば、使徒職において克服できない困難はないだろう | [2]。

これは、単に神の事柄に割く時間と 他の関心事に割く時間の配分を計算 するということを意味するのではあ りません。オプス・デイの創立者 は、イエスとの関係こそが最も重要 であり、それこそが、実際に私たち に幸せをもたらすもので、全能力を 傾けるに値するものであるというこ と指摘しているのです。そして、ま さにすでに熱意を込めて実践してい る人間的な良き事柄が、神のもたら す真の喜びに浸るためのベースにな ります。「多くの若者が、自分の肉 体に頓着して、身体を鍛え、見た目 をよくしようとしています。一方で は、技能や知識を積み上げることに

執心し、それで安心感を得る若者も います。また、高みをねらい、挑戦 することに必死になり、精神的な成 長を追い求める若者もいます。(…) あなたの力と知識だけでは、幸福も 聖性も高めることはできません。イ ンターネットにつながらないことを 心配するのと同じく、主との接続を 確保しておきなさい。つまり、対話 をたやさず、主に耳を傾け、自分の ことを主に伝え、どうしたらいいか 分からないときには主に尋ねなさ い。『イエス様、あなただったらど うなさいますか』 | [3]。神は私たち の心に語りかけ、私たちがしている 事柄において、周りと良い関係を持 つことができるようにしてくださる

イエスは、たとえをこう結びます。 「どんな召し使いも二人の主人に仕

でしょう。

えることはできない。一方を憎んで 他方を愛するか (…)。あなたがた は、神と富とに仕えることはできな い | (ルカ16・13)。私たちは、人生の さまざまな場面において、Bプラン を準備しておくように勧められま す。しかし、主は人生を神に賭ける よう招きます。「キリストと兄弟た ちを愛することは、外面的で、何か 付けたしのようなことではありませ ん。それが、人生の終局的な真の目 的なのです。根本的な選択、もし必 要なら殉教も辞さないほどの覚悟が 必要です。今でも昔のように、キリ スト者の生活は、勇敢さを要求され ています | 四、愛に賭けるとは、他 者に寛大に仕える熱意によって、重 荷を担うことを受け入れることを意 味します。

しかし、神の論理を受け入れる決心をしたとしても、時々、思うように生きていないことに気づきます。同じことを聖パウロも経験していま

す。「わたしは自分の望む善は行わ ず、望まない悪を行っている| (ローマ7・19)。聖ホセマリアの言 葉が、このようなストレスに落ち着 いて対処させてくれるでしょう。 『胸のうちに、火と水、冷たさと熱 がある。卑しい感情があり神もおら れる・・・。聖ミカエルにも悪魔に も、ローソクを灯していると、あな たは言う。安心しなさい。戦う気骨 のあるかぎり、胸のうちに灯ってい るのは、二本ではなく一本だけ、す なわち大天使のためだけである』 fol。聖母の「はい」は、「決意とリ

なわち大天使のためだけである』 ⑤。聖母の「はい」は、「決意とリスクを取る覚悟を表しています。彼 女はすべてを賭け、約束を信じたのです」 ⑥。マリアの助けによって、 私たちは「神を共に歩むことに優る

選択はない」という確信を生きることができることでしょう。

- [1] 聖アンブロジウス『詩編118の解説』(San Ambrosio, Comentario al salmo 118, Milán-Roma 1987, pp. 131-133)。
- [2] 聖ホセマリア『道』317番。
- [3] フランシスコ、使徒的勧告「キリストは生きている」158番。
- [4] ベネディクト十六世、説教、 2007年9月23日説。
- [5] 聖ホセマリア『道』724番。
- [6] フランシスコ、演説、2019年1月26日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-nenkann-25shujitu-c/(2025/12/13)